

# 教養学部創設 30 周年を祝して

学 長 松 本 宣 郎

1989年に東北学院大学教養学部が設置されて、2019年の今年には30周年にあたる。学院創立以来133年、大学としては1949年設置から数えて70年、その歴史の中での教養学部30年は、それらの年月と比較すれば長いとは言えないかもしれないが、泉キャンパス建設という気宇壮大な事業と軌を一にしてはじまったこと、この間に生じた世界と仙台地域の、あの東日本大震災を含む、激動と言い得る状況に鑑みるならば、これは深甚の敬意をもって祝するに足る30年である。心よりお祝い申し上げる次第である。

創設時の構想策定と実際のキャンパス移転に関わられた教職員はすでに数少ないとは言え、今も現役を続けておられるだろうし、本学でかなりの長期間、教養学部で過ごされた方も少なくないであろう。これら諸氏の感慨を思い、ねぎらい申し上げたい。

そもそも教養教育を掲げてきた大学である。そして実際1、2年次の学生の教育を「教養部」として担ってきた方々が教養「学部」を立ち上げたことの意義とそこに至るまでに要した構想力と努力には大きなものがあつたであろう。改めて尊敬の念を覚える。

1989年、教養学部教養学科、人間科学・言語科学・情報科学3専攻として発足し、2005年に人間科学科・言語文化学科・情報科学科、そして地域構想学科を新設して現在に至っている。文科、理科の共存融合の理念を維持し、学生のキャンパスライフ、なにかんづく課外活動に、また地域社会との交流にも力を入れる、ユニークな学部としての位置を発展させてきた。大震災後の、被災地被災者サポートのための発信力も評価されている。まことに充実し、本学として誇るに足る学部の歩みと申せよう。

現在本学は「TG Grand Vision 150」を導きの糸として次代のステージに入りつつある。「アーバンキャンパス」構想がそれである。教養学部もそのステージに向けて、さらなる新展開を、他の5学部と共に実現させていってほしい。学長としての切なる願いである。